マルメ研修感想文

歯列矯正よしだ歯科　院長　石川健

まず、このような素晴らしい研修に参加できたことに感謝致します。研修の成り立ちや熊谷先生の思いをお聞きすると、この機会を無駄にすることなく自分たちにできることを考え、前進しなければならないと強く感じます。

これまでOPセミナーで「ワールドスタンダードの歯科医療」について教わってきました。リスクアセスメントやメンテナンスを主体とした歯科医療がスウェーデンでは当たり前であるということを目の当たりにし、日本においても同様の歯科医療を提供すべきであることを再確認する機会になりました。

有名論文の著者から直接聞く、一次情報としてのカリオロジーやマルメ大学での教育、社会医療制度など、どこを切り取っても圧倒されるばかりで日本との大きな違いを実感しました。

この研修で得たことをどうやって還元すべきかを考え、シンプルに一つの結論を出しました。
自分にできることを常に考え、問題点を直視し前進し続けること。
これは、1970年代には日本よりも多かったDMFTを世界を見ても少ないレベルまで下げ、まだカリエスを抱えるハイリスクグループに対してさらなる対策を講じ続けた結果が現在のスウェーデンであり、その根底にはきっちりとデータをとって自分達を再評価し、問題を直視した上で対策を講じるというPDCAサイクルが繰り返されていることの結果だと感じたからです。
ですから自らも同じことをすべきで、その繰り返しによってのみスウェーデンに近づけると確信しています。

もう一つ違った面での研修の素晴らしさは、一緒に参加した方々との有意義なディスカッションです。
初めての出会いも沢山ありましたし、仲の良い方々とはさらに深い話をすることができました。
熱い気持ちを持って参加されている方々とのディスカッションは励まされることも多く、前に進む勇気を頂けました。

一番印象に残ったこととして Dan Ericson先生が全てを一言にまとめてこう言っていました。
「THINK」
何が重要で何をすべきか、自分で考えて行動せよ。それがプロだ。
そんな言葉に聞こえました。
ただの真似事として行うのではなく、歯科医療関係者全員が、なぜ、どうして、と考えながら自分が納得したことを医療として提供出来る組織になりたいと強く思います。そして、今の私達の医院状況はそれが実現出来る方向に向かっていると感じ、共に働くスタッフにも感謝したいと感じました。

最後に実学についても補足すると、
デンタルカリエスをしっかり読んで参加したことが今回の研修をより有意義にしてくれました。掲載されている論文の著者たちから直に教わるカリオロジーは素晴らしかったですし、当然カリオロジーの成書ですが、今回のテーマだった歯科医療哲学をしっかり表現している本でもあるということがわかりました。復習としてもう一度読みたいと考えています。実臨床でのカリオロジーにもそのまま応用して問題ないと確信を得られたことはとても自信に繋がります。
参加できなかったスタッフと研修を共有するために研修報告プレゼンを行うことから始めています。
最後にもう一度、このような素晴らしい研修の機会を得られたことに御礼申し上げます。
教えて頂いた歯科医療哲学を大事にし、今後も研鑽して参ります。ありがとうございました。